

# Amagasaki Oda High School SSH Communication

令和2年6月15日 No.1  
兵庫県立尼崎小田高等学校 SSH 推進委員会

自宅学習や分散登校の期間を経て、いよいよ学校生活が本格的に始まることとなりました。  
この第1号では小田高 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の学校としての考え方や、それに伴う行事等の紹介をします。

## ① 持続可能社会の構築へ向け実践できる、学際的な探究活動の推進

各学科の2年生が小田高リサーチ生徒研究発表会(2月)の中で、探究Ⅱや総合的な探究の時間で行っている課題研究の成果を発表します。環境問題や医療技術などの自然科学的視点だけでなく、人間社会が抱える問題解決に向けた社会科学的視点や、国際感覚を持って解決する学際的な視点を得られるような取組を行っています。写真は令和元年度の小田高リサーチのものです。

サイエンスリサーチ科  
(口頭発表)



国際探求学科  
(ポスター発表)



看護医療・健康類型  
(口頭発表)



普通科  
(ポスター発表)



## ② 探究活動の評価方法の確立とそのための新たな高大連携の取組

小田高は京都大学大学院教育学研究科と連携して、探究活動の評価基準(ルーブリック)の作成やポートフォリオの活用をしています。学期ごとにルーブリックとポートフォリオを用いて課題研究の評価を定期的に行い、よりよいものを作り上げていきます。

## ③ 大学や研究機関、行政や地元企業との連携の推進

小田高は多くの大学や機関と連携しています。それによってたくさんの行事を行うことができます。詳しい予定等は次号以降の SSH 通信で紹介していきたいと思えます。

コウノトリの郷公園実習



大阪府立大学研修



須磨海岸実習



## ④ 主体的な生徒の育成の工夫

小田高では「コミュニケーション力」、「マネジメント力」を向上させる取組を行っています。その代表的な行事の写真をいくつか掲載します。

生徒実行委員会(7校連携)



高校生サミット(複数校連携)



理科算数教室(SR科)



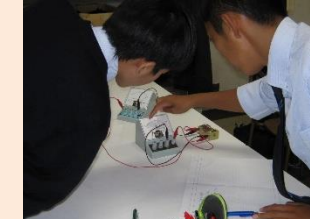
## ⑤ 探究活動の段階的な指導の充実・発展

小田高では3年間を通して段階的に「論理的思考力」、「表現力」を定着させる取組を行っています。探究Ⅰで理数の各分野について学び、探究Ⅱで実際に課題研究を行い、探究Ⅲでは課題研究を英語でまとめたり、研究成果の英語による発表を行ったりします。

探究Ⅰ



探究Ⅱ



探究Ⅲ



## ⑥ 英語を活用した科学的リテラシーの育成

探究Ⅲの英語による発表だけでなく、国際探求学科との連携による留学生交流会も行っています。また、小田高の ALT の先生方も理系なので質問しやすい環境が整っています。

英語による発表



留学生交流会



次回の SSH 通信は SSH・SR(サイエンスリサーチ)科の行事予定についてです。今年度は新型コロナウイルス等の影響により、日程変更の可能性が高い行事もあります。先生からの連絡をよく聞いて行動してください。